

2018 シカ年度実行計画の実施結果
(確定版)

2. 2018シカ年度実行計画(管理事業)一覧

管理手法	遺産地域		隣接地域
	エゾシカA地区	エゾシカB地区	
防御的手法	<p>特定管理地区(知床岬)</p> <p>■既存の植生保護柵の維持・補修 概要:既存植生保護柵の巡視及び補修 場所:知床岬 事業時期:通年 実施主体:環境省、林野庁 (既存植生保護柵) ・亜高山高茎草本群落(20m×20m) ・ガンコウラン群落(15m×15m) ・山地高茎草本群落(エオルシ岬) ・林野庁森林調査区(1ha)</p>	<p>■既存の侵入防止柵の維持・補修 概要:既存侵入防止柵の巡視及び補修 場所:幌別ー岩尾別地区 事業時期:通年 実施主体:林野庁、斜里町 (既存侵入防止柵) ・幌別地区林野庁森林調査区(1ha) ・岩尾別カシワ林林野庁森林調査区(林野庁H20, 21, 22設置)(3.55ha) ・しれとこ100平方メートル運動地内の各種侵入防止柵</p> <p>■樹皮食い防止対策の実施 概要:ポリエチレン製ネットによる既存単木保護木(オヒョウ、イチイ、ミズキ、アオダモ等、計約800本)の補修等 場所:幌別ー岩尾別地区(「100平方メートル運動地」) (斜里町) 事業時期:春～秋 実施主体:斜里町</p> <p>■ルサー相泊地区電気柵の維持管理 概要:ルサー相泊に設置された電気柵の維持管理及び補修 場所:ルサー相泊地区(キキリベツ～アイトマリ川左岸) 実施時期:春～秋 実施主体:羅臼町・知床財団</p>	<p>■ウトロ市街地侵入防止柵の維持管理を含めた被害対策 概要:ウトロ市街地を取り囲む侵入防止柵(延長距離4.1km)の維持管理および被害対策(柵内のシカの除去を含む) 場所:ウトロ市街地 事業時期:通年 実施主体:斜里町</p> <p>■既存の侵入防止柵の維持・補修 概要:既存侵入防止柵の巡視及び補修 場所:ウトロ地区(イチイ林木遺産資源保存林) 事業時期:通年 実施主体:林野庁</p> <p>■羅臼中心市街地侵入防止柵の維持管理 概要:市街地北側と南側に設置された電気柵の維持管理及び補修 場所:羅臼中心市街の北側と南側 実施主体:羅臼町・知床財団</p>
生息環境 改変		<p>■開拓跡の未立木地の森林化作業 概要:しれとこ100平方メートル運動地内での、開拓跡未立木地の森林化作業(植樹苗の保護育成等)を引き続き実施 場所:幌別ー岩尾別地区 事業時期:春～秋 実施主体:斜里町</p> <p>■道路法面牧草面積の拡大抑制 概要:工事実施にあたっての協議や許認可の際に、新たな牧草面積の拡大を可能な限り抑制するよう指導に努める。 場所:特に国立公園内のシカ越冬地周辺の道路沿い 実施主体:環境省</p>	
個体数調整	<p>■仕切り柵の維持管理 概要:仕切り柵の維持管理 / 末端部の改良工事? 場所:知床岬 事業時期:通年 / 8-9月?</p> <p>■個体数調整事業 概要:越冬期におけるシカの捕獲 場所:知床岬 事業時期:平成31年2～5月 実施主体:環境省 目 標:航空カウントによる先端部3.2km²におけるシカ発見数を16～32頭(5～10頭/km²)以下まで減少させる。 手 法:銃器・くくりわな等?</p>	<p>■ルサー相泊地区における個体数調整事業 概要:越冬期におけるシカの捕獲 場所:ルサー相泊地区 事業時期:平成30年12月～平成31年4月 実施主体:環境省 手 法:銃器、くくりわな、小型箱わな等</p> <p>■幌別ー岩尾別地区における個体数調整事業 概要:越冬期～無積雪期におけるシカの捕獲 場所:幌別ー岩尾別地区 事業時期:平成30年12月～平成31年6月 実施主体:環境省 手 法:銃器、大型囲い柵(囲いわな)、小型箱わな、くくりわな等</p>	<p>■銃による個体数調整捕獲 (羅臼町内ー羅臼町、ウトロ高原ー斜里町、真鯉地区ー林野庁ー検討中)</p> <p>■麻酔薬による個体数調整捕獲(吹き矢) (ウトロ市街地柵内ー知床財団・斜里町)</p> <p>■囲いわなによる個体数調整捕獲(ウトロー真鯉地区・羅臼春苺古丹地区ー林野庁)</p> <p>■小型箱わなによる個体数調整捕獲(ウトロー真鯉地区・羅臼春苺古丹地区ー斜里町、林野庁)</p> <p>■狩猟による密度操作(北海道)</p>

3. 2018シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧

	調査項目	遺産地域			隣接地域	
		エゾシカA地区	特定管理地区(知床岬)	エゾシカB地区		
植生	詳細調査 植生回復調査・植生影響調査	<p>■簡易的手法による指標種の調査 概要:ルシヤ地区に固定調査ラインを設定して指標種の開花株数等を調査。 時期:8月 実施主体:環境省</p> <p>■固定調査区モニタリング調査 概要:固定調査区でシカ採食圧と植生回復状況を把握。 知床連山地区 時期:8月 実施主体:林野庁・環境省</p>	<p>■簡易的手法による指標種の回復量調査 概要:固定調査ラインで指標種の開花株数等を調査。 時期:6-7月、8月 実施主体:環境省</p> <p>■固定調査区モニタリング調査 概要:固定調査区でシカ採食圧と植生回復状況を把握。 草原植生囲い区柵外の隔年調査も実施 時期:8月 実施主体:環境省</p>	<p>■簡易的手法による指標種の回復量調査 概要:固定調査ラインで指標種の開花株数等を調査。 幌別一岩尾別地区、ルサー相泊地区。 時期:6-7月、8月 実施主体:環境省</p> <p>■固定調査区モニタリング調査 概要:固定調査区でシカ採食圧と植生回復状況を把握。 時期:8月 実施主体:林野庁・環境省</p> <p>■幌別一岩尾別:100平米運動地各種侵入防止柵内外 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:斜里町</p>		
	個体数調整対象地域 シカ採食量・回復量の 短期的調査		※知床岬地区は役割を終え、終了。 今後は定期的な状況把握のみ。	<p>■幌別一岩尾別地区採食圧プロット 概要:2012年に設定したイネ科草本・ササの採食圧プロットのモニタリング調査 時期:8~10月 実施主体:環境省</p>		
	広域的調査 植生影響広域調査	<p>■東岳シレットコスミレ採食状況調査 概要:シレットコスミレの株数・採食痕調査 時期:7~9月 実施主体:環境省</p> <p>■広域採食圧調査 概要:森林植生調査(草本含む)、被食状況調査 岬西側地区、ルシヤ地区 時期:6~8月 実施主体:林野庁</p>		<p>■広域採食圧調査 概要:森林植生調査(草本含む)、被食状況調査 ルサー相泊地区 時期:6~8月 実施主体:林野庁</p>	<p>■広域採食圧調査 概要:森林植生調査(草本含む)、被食状況調査 ウトロ地区、春刈古丹地区 時期:6~8月 実施主体:林野庁</p>	
	在来種分布調査					
	植生調査					
エゾシカ 生息密度	詳細調査 シカ生息動向調査		<p>■航空カウント調査 概要:知床岬先端部においてヘリコプターからの旋回撮影で越冬個体数と雌雄等の群れ構成を把握 時期:2-3月 実施主体:環境省</p>	<p>■ルサー相泊:ライトセンサス 概要:ライトセンサス調査(岩見橋~相泊:調査距離10.2km) 時期:春、秋 実施主体:羅臼町</p> <p>■幌別一岩尾別:ライトセンサス 概要:ライトセンサス調査(調査距離9.4km) 時期:春、秋 実施主体:斜里町</p>	<p>■ウトロ-真鯉:日中センサス 概要:日中センサス(調査距離約12km) 時期:12~4月 実施主体:知床財団</p> <p>■羅臼町峯浜:ライトセンサス 概要:ライトセンサス調査(調査距離約10km) 時期:10月中旬~下旬 実施主体:北海道</p> <p>■真鯉、春刈古丹:カメラトラップ 概要:3~4キロの範囲内に6台程度の自動撮影装置を設置 時期:6~7月、9~10月 実施主体:林野庁</p>	
	詳細調査 自然死亡状況等調査			<p>■ルサー相泊:自然死亡状況調査 概要:シカの自然死亡状況を把握。 時期:冬~春 実施主体:羅臼町</p> <p>■幌別一岩尾別:自然死亡状況調査 概要:シカの自然死亡状況を把握。 時期:冬~春 実施主体:斜里町</p>	<p>■ウトロ-真鯉:自然死亡状況調査 概要:シカの自然死亡状況を把握。 時期:冬~春 実施主体:斜里町</p> <p>■ルサー峯浜:自然死亡状況調査 概要:シカの自然死亡状況を把握 時期:冬~春 実施主体:羅臼町</p>	
	広域的調査 越冬群分布調査	■航空カウント調査 概要:ヘリコプターからの越冬個体数把握(遺産地域内全域)			時期:2-3月 実施主体:環境省	
	広域的調査 越冬地エゾシカ実数調査					
	季節移動調査					
土壌 浸食	詳細 土壌浸食状況調査					
	広域 土壌浸食状況広域調査	■土壌浸食状況の広域モニター(当面は広域採食圧調査の中で、林床の裸地面積等の変動を調査することで簡易的に把握)				
生態系 への 影響	詳細 昆虫生息状況調査					
	陸生鳥類生息状況調査					

個体数調整の中長期目標

※ は実績値、 は目標値

	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期		備考		
	実行計画		2010(H22)シカ年度	2011(H23)シカ年度	2012(H24)シカ年度	2013(H25)シカ年度	2014(H26)シカ年度	2015(H27)シカ年度	2016(H28)シカ年度	2017(H29)シカ年度		2018(H30)シカ年度	2019(R1)シカ年度
A 知床岬	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット M00)	上段:発見頭数(≒実数?)	246 76.9	265 82.8	第1段階目標: 5頭/km2以下 35頭/7km2(16頭/3.2km2)以下				40 12.5	2018(H30)シカ年度 16~32頭/3.2km2 以下	75? (83×1.2)	2~3月(捕獲実施前)に実施 対象範囲=モニタリングユニット M00:約3.23km2 旧第1段階目標:1980年代レベル (知床岬先端部のみの航空カウントで5頭/km2以下) 第3期目標:5~10頭/km2以下	
		下段:発見密度(頭/km2) (上段値÷3.2km2)			75 23.4	87 27.2	139 43.4	57 17.8					88 27.5
	II.捕獲頭数 (M00)	目標	—	—	45 (航空カウント値の80%)	30 (航空カウント値-29)	110 (航空カウント値-29)	34 (航空カウント値-29)	51	20	6~22 (20)	43~59	自然増加率0.2とする。翌年の捕獲前生息数35頭以下となる数(〜2016)。同16~32頭以下となる数(2017~)
		実績 (うちメス成獣)	57 (20)	216 (133)	32 (4)	9 (2)	88 (43)	10 (2)	37 (9)	8 (2)	11 (3)		
	III.捕獲後推定値	上段:推定生息頭数 下段:推定生息密度(頭/km2)	189 59.1	49 15.3	43 13.4	78 24.4	51 15.9	47 14.7	51 15.9	32 10.0	63 19.7		
捕獲手法・検討事項		○ヘリによる厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船1回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船4回(うち2回は無 雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿 泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿 泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿 泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿 泊捕獲)	○くくりわなと狙撃 ヘリ1回 (厳冬期) ○待機狙撃 船3回(無雪期 の宿泊捕獲)	○くくりわなと仕切柵を活用し た囲いわな式 ヘリ1回	2007(H19)シカ年度～個体数調整開始 2011(H23)シカ年度 仕切柵設置 広義の知床岬地区(U-01+11)でのヘリセン発見密度5頭/km2以下が旧第2段階目標 の宿泊捕獲)	
B ルサ ー 相 泊	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期		備考		
	実行計画		2010(H22)シカ年度	2011(H23)シカ年度	2012(H24)シカ年度	2013(H25)シカ年度	2014(H26)シカ年度	2015(H27)シカ年度	2016(H28)シカ年度	2017(H29)シカ年度		2018(H30)シカ年度	2019(R1)シカ年度
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット R13)	上段:生息頭数(指数) 下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	156 8.72	—	第1段階目標: 89以下(R13-U13s) 5以下				第1段階目標(高標高含む): 123以下(R13) 5以下		48 1.9*	2018(H30)シカ年度 123以下(R13) 5頭/km2以下	面積(モニタリングユニット R13)=24.68km2 R13-U13s(6.81km2)=17.87km2 旧第1段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
					181 10.13	105 5.88	61 3.41	141 5.71*	70 2.84*				
	II.ライトセンス	秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	災害中止	1.4	2.0	2.1	調査距離10.2km ショウジ川～アィマリ川
		春 個体数指数(頭/km)	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	災害→距離短縮	7.1	6.2	6.2	調査距離10.2km ショウジ川～アィマリ川
III.標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数(捕獲後春)		327.7±94.2	184.0±46.5	—	—	—	—	—	—	—	—		
IV.捕獲頭数	目標	—	—	300	220	215	210	20+α	80	75	70		
	実績	125	188	78	208	88	79	13	78	80			
捕獲手法・検討事項		○囲いワナ1基 ○定点SS	○囲いワナ2基 ○巻狩り ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○くくりワナ (R12で ○船捕獲)	○囲いワナ1基 ○くくりワナ・箱ワナ	○くくりワナ・箱ワナ ○待伏誘引狙撃 ○流し猟式SS	○くくりワナ ○流し猟式SS ○待伏誘引狙撃	2009(H21)シカ年度～個体数調整開始	
C 標 別 ー 岩 尾 別	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				第3期		備考		
	実行計画		2010(H22)シカ年度	2011(H23)シカ年度	2012(H24)シカ年度	2013(H25)シカ年度	2014(H26)シカ年度	2015(H27)シカ年度	2016(H28)シカ年度	2017(H29)シカ年度		2018(H30)シカ年度	2019(R1)シカ年度
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット S04)	上段:生息頭数(指数) 下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	1257 43.2	—	第1段階目標: 360以下 12.4以下				第2段階目標: 145以下 5以下		56 1.9	2018(H30)シカ年度 145頭以下(S04) 5頭/km2以下	面積(モニタリングユニット S04)=29.08km ² 旧第1段階目標:2003年水準ヘリカウント値 旧第2段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
					306 10.5	289 9.9	184 6.3	176 6.1	134 4.6				
	II.ライトセンス	秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	1.6	1.9	2.1	1.4	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
		春 個体数指数(頭/km)	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	5.1	5.2	5.1	4.9	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km
III.捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130	100	85	125	100		
	実績	0	452	418	207	177	106	102	96+α	126			
捕獲手法・検討事項			○囲いワナ1基 ○くくりワナ ○流し猟式SS(冬)	○囲いわな1基 ○流し猟式SS (秋・冬・春)	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(冬) ○大規模囲い柵	○囲いわな2基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いわな1基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵	○囲いわな1基 ○箱わな ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いわな1基 ○箱わな ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	○箱わな ○くくりわな ○流し猟式SS(春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	○箱わな ○くくりわな ○待ち伏せ式誘引狙撃 ○大型囲い柵	2011(H23)シカ年度～個体数調整開始 2013(H25)シカ年度 岩尾別地区大規模囲い柵整備	

管理事業（特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域）

1. 防御的手法

a. 知床岬侵入防護柵管理(特: 環境省・林野庁)

- ・2018年8月、9月に踏査及び補修作業を実施(林野庁柵)。
- ・2018年10月11日に羅臼側 E3_Rc(亜高山高茎草本群落侵入防護柵)のヒグマに掘られた箇所を補修。
- ・2019年8月に羅臼高茎草本囲い区(E3_Rc)及びエオルシ岬高茎草本囲い区(E1_EC)にて植生保護柵(環境省柵)の補修等を実施。(※2019シカ年度)

b. 幌別侵入防護柵管理(B: 林野庁)

- ・2018年6月、9月、10月、11月に踏査及び補修作業を実施。

c. 運動地侵入防護柵管理(B: 斜里町)

- ・老朽化した既存防護柵の補修作業を実施。

d. 岩尾別川河畔林侵入防護柵管理(B: 斜里町)

- ・倒木により破損した柵の補修作業を実施。

e. 運動地樹皮ネット管理(B: 斜里町)

- ・経年劣化している樹皮保護ネットの巻き直しなど、既存保護木の維持作業を実施。

f. ウトロ市街地侵入防護柵管理(隣: 斜里町)

- ・冬季の雪圧や倒木による柵の歪みがあり、補修実施。

g. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵管理(隣: 林野庁)

- ・2018年6月、11月に踏査及び補修作業を実施。

h. 岩尾別カシワ林侵入防護柵管理(B: 林野庁)

- ・2018年6月、9月、10月、11月に踏査及び補修作業を実施。

i. ルサ-相泊の侵入防止電気柵管理(B: 羅臼町・知床財団)

- ・キキリベツから相泊の約8km区間の電気柵の維持管理を実施。
主な目的はヒグマの侵入防止だが、エゾシカにも効果あり。

j. ルサ園地の実生保護柵設置(B: 環境省・羅臼町・知床財団 3者協定)

- ・ルサ川右岸の環境省所管地に設置されている、シカ採食圧から実生を守る保護柵を2018年9月に10m×20mに増設。

k. 羅臼中心市街地電気柵維持管理(隣: 羅臼町・知床財団)

- ・羅臼中心市街地の南北に設置されている電気柵の維持管理を実施。
主な目的はヒグマの侵入防止だが、エゾシカにも効果あり。

2. 越冬環境改変

a. 運動地森林化作業(B: 斜里町)

- ・防鹿柵内外へ中型苗 47 本、大型苗 9 本の移植を実施。

b. 道路等法面牧草面積の抑制(B: 環境省)

- ・2018 年度は新たな牧草法面を造成しない、現地表土を使用する指導を行った工事案件は無し(工事の提案段階で既に現地表土を使用する施工案になっていることが多い)。

3. 個体数調整

a. 知床岬 個体数調整事業(特: 環境省)

- ・2019 年 2～3 月にヘリコプターで岬入りし、3 泊 4 日できくりわな及び銃器による捕獲を1回実施して 7 頭を捕獲。同年 5 月に船で岬入りし、1 泊 2 日で銃器による捕獲を 3 回実施し、4 頭を捕獲(2019 年 5 月末までに計 1 頭を捕獲)。

※同年 6 月(2019 シカ年度)に船舶による日帰り捕獲を実施したが捕獲無し。

b. ルサー相泊地区 個体数調整事業(B: 環境省)

- ・ルサ川河口～相泊周辺のくくりわなで、2019 年 1～3 月に 32 頭を捕獲。
- ・ルサ川河口～相泊周辺の箱わなで、2019 年 1～3 月に 7 頭を捕獲。
- ・相泊の囲いわな(体重計式小型囲いわな)で、2019 年 1～3 月に 3 頭を捕獲。
- ・ルサー相泊間の流し猟式シャープシューティングで、2019 年 3～4 月に 38 頭を捕獲。
- ・4 つの捕獲方法により、計 80 頭を捕獲した。

c. 幌別-岩尾別地区 個体数調整事業(B: 環境省)

- ・岩尾別地区の仕切柵を囲いわなとして使用し、2019 年 1～3 月に 13 頭を捕獲。
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの約 0.6 kmの通路沿線で待ち伏せ式誘引狙撃を 2019 年 1～3 月に 8 回実施し、33 頭を捕獲。
- ・幌別地区に 6 基の箱わなを設置し、2019 年 1～3 月に 33 頭を捕獲。
- ・幌別～岩尾別地区にくくりわなを設置し、2019 年 1 月～3 月に 36 頭を捕獲。
- ・岩尾別地区の台地上において餌付け誘引による狙撃を 2018 年 3～4 月に 7 回実施し、11 頭を捕獲。
- ・しれとこ 100 平方メートル運動地の作業道沿線で流し猟式シャープシューティングを 2019 年 6 月に 4 回実施し、9 頭を捕獲(※2019 シカ年度)。
- ・5 つの捕獲手法により、計 126 頭を捕獲した。

d. 銃による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町では 2018 年 6 月～2019 年 5 月にウトロ高原農地において 21 頭、半島基部農地において 2018 年 6～9 月に 53 頭、2019 年 4～5 月に 86 頭を捕獲した。
- ・羅臼町では町有林における巻き狩りと流し猟により、2018 年 9 月に 26 頭、2019 年 2～5 月に 79 頭、計 105 頭を捕獲(羅臼町及び町鳥獣被害防止協議会)。
- ・林野庁では、2019 年 3 月に、遠音別地区において誘引狙撃で6頭を捕獲。

e. 銃器以外による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・林野庁では、2018 年 12 月～2019 年 3 月に、ウトロ地区において囲いわな2基で 15 頭、くくりわなで 14 頭、遠音別地区において囲いわな1基で6頭、くくりわなで9頭、真鯉地区において箱わな7基で9頭、

春苧古丹地区において囲いわな 1 基で5頭、箱わな 3 基で6頭、くくわなで9頭を捕獲。

- ・斜里町では、半島基部農地及びウトロ高原農地において罾での捕獲無し。2019年1～4月にウトロ市街地柵内において箱わなで 13 頭捕獲。
- ・羅臼町では、2019年1月～3月に海岸町においてくくりわな 5 基を設置し、捕獲なし(羅臼町鳥獣被害防止協議会)。また、羅網や交通事故等の原因により 5 頭を安楽殺処置。

f. 狩猟(隣: 北海道)

- ・斜里町内の隣接地域において狩猟での効率的な捕獲を検討するため、可猟期間に中断期間を設定した。2018年度の結果はとりまとめ中(北海道)。

g. 仕切柵の維持管理(特: 環境省)

- ・知床岬の捕獲支援用仕切柵の破損箇所の確認を実施。
- ・知床岬先端部でのエゾシカの捕獲等を推進するため、2019年8月に文吉湾側の仕切柵末端部で改修工事を実施。(※2019シカ年度)

モニタリング調査(特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域)

1. 植生の詳細調査(シカ個体数調整実施地区 + ルシヤ地区)

1-1. 簡易的な手法による指標種の回復量調査(特・A・B: 環境省)

- ・長距離ラインで指標種の開花数をカウントする調査を 3 地区(知床岬・幌別-岩尾別・ルサ-相泊)で実施したほか、2014年に設定した詳細調査ラインの追跡をした。
- ・森林環境の 23 種、草原環境の 45 種について指標としての評価をした。森林環境では一部の種で開花個体数の増加が見られた。草原環境では開花株が減少しており、エゾシカの一時的な増加による影響と思われる。

1-2. 植生影響調査(森林植生、草原植生)(特・A・B: 林野庁、環境省)

a. 森林植生調査

- ・相泊ルサ地区 5 区、春苧古丹地区 2 区、ルシヤ地区 6 区、宇登呂地区 4 区の追跡調査を実施した。
- ・広葉樹の回復はほとんど見られなかったが、個体数調整を実施している地区については林床植生の回復傾向が見られた。
- ・ルサ-相泊地区では、下枝被度・ササ類の被度・高さに回復傾向が見られたが、広葉樹稚樹の発生は見られなかった。

b. 草原植生調査

- ・知床岬地区において、1-3b の調査と合わせて、ササ調査ライン 3 ラインなどの調査を実施。

1-3. 植生保護柵を用いた回復過程調査(森林植生、草原植生)(特・B: 林野庁、斜里町)

a. 幌別地区侵入防止柵内外(B: 林野庁)

- ・2018年度は未実施。

b. 知床岬地区侵入防止柵内外(特: 林野庁)

- ・2018年度は未実施。

c. 幌別一岩尾別 100 平米運動地各種侵入防止柵内外(B: 斜里町)

- ・運動地全体では、各所にてこれまで目につくことがなかった実生や草本の姿を確認する機会が増加している。
- ・柵外に樹皮保護ネットを巻かずに植栽している 55 本の中型苗では、計 7 本に樹皮の被食を確認した。なお、2018 年 5 月に植栽した 35 本のうち、オホヨウ等 4 本が即日のうちに被食されたため、樹皮保護ネットによる保護を行った。その後、新たな被食は確認されていない。

2. 植生の広域的調査

2-1. 植生影響調査(森林植生)(特・A・B・隣: 林野庁、環境省)

- ・半島内の森林固定調査区 70 プロットのうち、相泊ルサ地区、春苺古丹地区、岬西側地区、ルシヤ地区、宇登呂地区の計 19 区で下枝、稚樹、林床植生調査(一部毎木調査)を実施(結果は 1-2a を参照)。

2-2. 植生影響調査(海岸植生)(A: 環境省)

- ・2018 年度は未実施。

2-3. 植生影響調査(高山植生)(A: 環境省)

a. 高山植生影響調査

- ・知床連山地区で 5 箇所の固定調査ラインの植生調査を実施した。
- ・エゾシカによる採食が認められた植物は過去の調査とあわせて 164 種類の植物がリストアップされたが、食痕密度は 2011-12 年に比べて大きく低下しており、嗜好性が高いオオカメノキやオガラバナ、チシマアザミなどはかなりの回復が認められた。

b. 東岳シレットコスミレ採食状況調査 ※環境省職員による調査: 東岳付近

- ・2018 年 6 月 29 日に調査を実施。調査区域内で確認した 171 株のうち、エゾシカによる被食は 2 株であった。

3. エゾシカ個体数・個体数指数

a. 知床岬 航空カウント調査(特: 環境省)

- ・2019 年 2 月 26 日の午後先端部旋回撮影調査を実施し、知床岬先端部の台地上にひろがる草原上に 6 群 56 頭を確認。前年度の発見数 49 頭から微増。オス成獣が優勢。

b. 幌別・岩尾別ライトセンサス(B: 斜里町)

- ・2018 年秋は幌別、岩尾別の密度指標値がそれぞれ 1.9 頭/km、2.2 頭/km であり、前年同期(ともに 1.9)と比較し岩尾別で微増。子連れ率(百メス比)はそれぞれ 28.6、38.1 となり、前年同期(37.9、26.9)と比較して幌別は減少し、岩尾別は増加。
- ・2019 年春は幌別、岩尾別がそれぞれ 6.1 頭/km、3.6 頭/km となり、前年同期(6.9、3.3)と比較して横ばい。百メス比はそれぞれ 18.3、44.7 となり、前年同期(31.1、17.6)と比較して幌別は減少し、岩尾別は増加。

c. ルサー相泊ライトセンサス・日中センサス(B: 羅臼町)

- ・2018 年秋のライトセンサスは、10 月下旬に 5 夜連続で計 5 回実施。密度指標値 2.1 頭/km、百メス比は 19.4。密度指標値は前年同期 1.4 頭/km から微増。百メス比については 21.3 から微減。
- ・2019 年春のライトセンサスは、4 月下旬に計 5 回実施。密度指標値 6.2 頭/km、百メス比は 22.0。密度

指標値は前年同期 7.1 頭/km から微減。百メス比については 18.1 から微増。

d. 真鯉 日中センサス(隣: 知床財団)

- ・2019 年 1～3 月の狩猟中断期間または狩猟期終了後に計 5 回実施。最大発見頭数は 110 頭(2019 年 3 月 25 日)であった。密度指標値は 9.2 頭/km。前年の最大数(3 月 18 日に 40 頭、3.3 頭/km)より増加。北海道猟友会の狩猟自粛の影響が否定できない。
- ・確認頭数は 2012(H24)シカ年度以降 7 年目で、初めて増加。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(隣: 北海道)

- ・2018 年 10 月 15 日に猟友会羅臼部会が実施(北海道から北海道猟友会への委託業務)
- ・牧草地コース 2.2 頭/km、森林コース 0.1 頭/km(2017 年はそれぞれ 4.8、0.9 頭/km)。

f. ヘリコプターによる航空カウント調査(A・特・B: 環境省)

・2019 年 2 月下旬～3 月上旬の 4 日間に遺産地域内(計 10 区画)を調査し、138 群 621 頭を発見。下記の括弧内の M00 などはモニタリングユニットを示す。

- ・知床岬地区(M00): 74 頭(前年比 185%、+34 頭)
- ・ルサー-相泊地区(R13): 76 頭(前年比 158%、+28 頭)
- ・幌別-岩尾別地区(S04): 130 頭(前年比 232%、+74 頭)
- ・ルシヤ地区(S02): 181 頭(前年比 54%、-152 頭)

g. 幌別地区・遠音別地区行動圏調査(B・隣: 知床財団)

- ・2015 年 2 月に GPS 首輪を装着し、同年の夏に電池切れとなった 2 頭のエゾシカ(メス成獣)について、くくりわな・箱わなによる再捕獲・首輪回収をひきつづき試みたが、捕獲できず。

h. 遠音別・春苺古丹カメラトラップ調査(隣: 林野庁)

- ・遠音別地区のオペケブ林道(2018 年 6, 9 月)に 5 台、春苺古丹地区の春苺古丹林道(2018 年 7, 10 月)に 6 台の自動撮影カメラを設置し、エゾシカの出現状況を調査した。

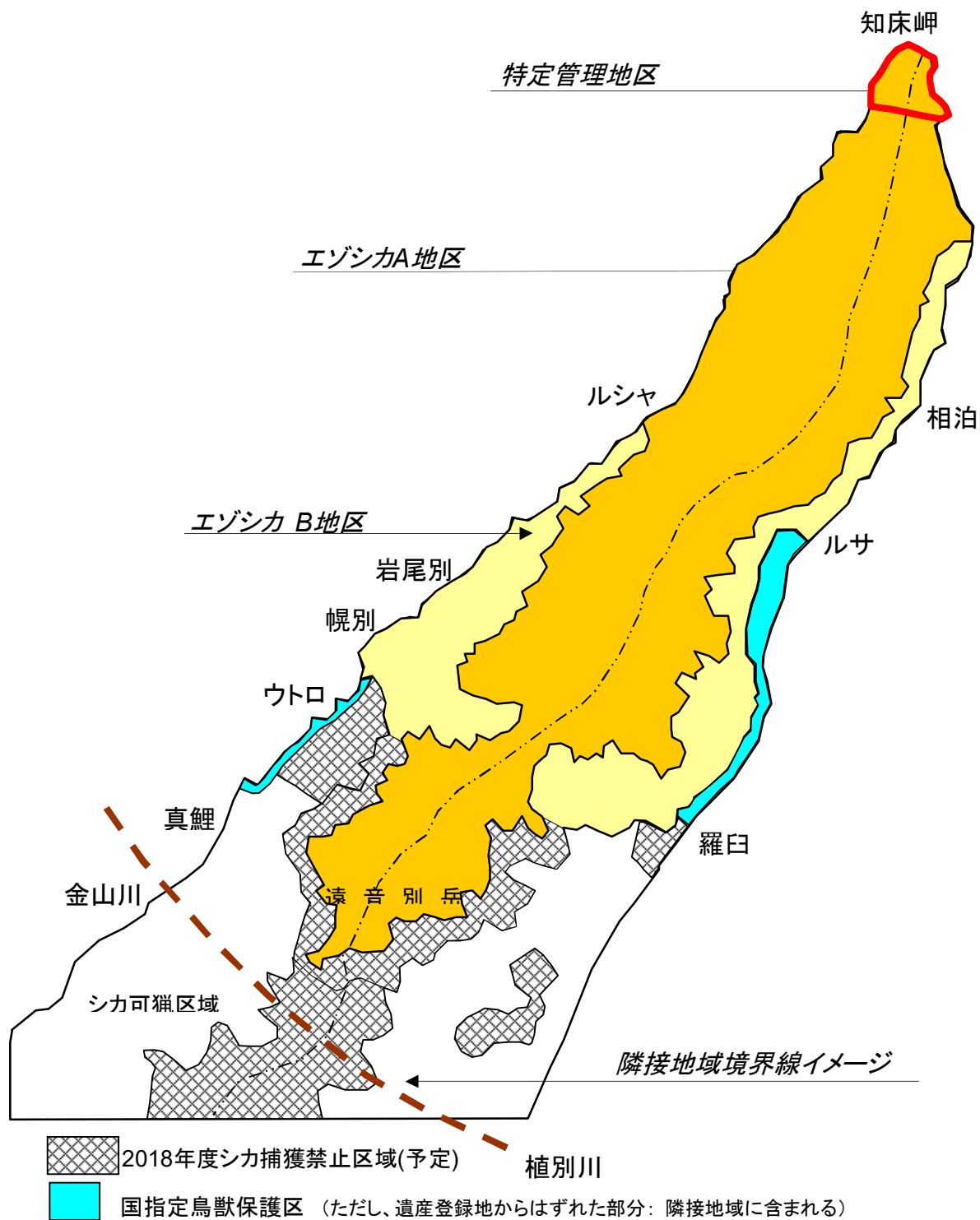
4. シカ自然死亡 ルシヤ・知床岬・幌別-岩尾別・ルサー-相泊・真鯉(全域: 知床財団)

- ・2018 シカ年度は知床岬、ルシヤにおいてエゾシカの自然死体調査は実施しなかった。
- ・2018 シカ年度に斜里町及び羅臼町の業務において確認された自然死亡は以下。
 - ・幌別-岩尾別: 3 体
 - ・真鯉: 0 体
 - ・ルサー-相泊: 1 体

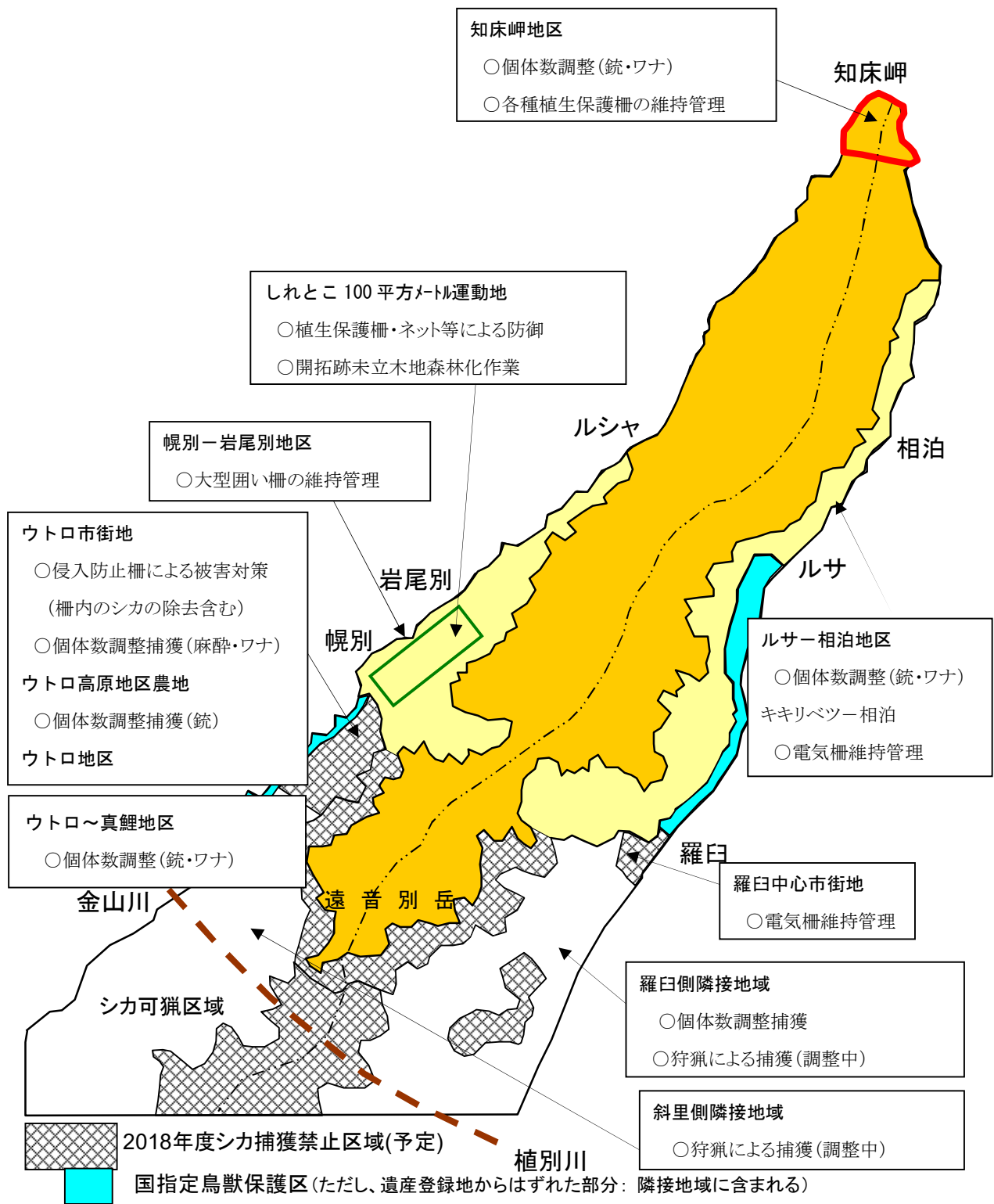
5. 鳥類相モニタリング調査(A: 環境省、酪農学園大学)

- ・2018 年は調査実施なし。

知床半島エゾシカ管理計画・地区区分図



H30シカ年度管理事業位置図



H30シカ年度モニタリング調査位置図

* 固定調査区による植生・採食圧調査を除く

